

# 自ら学ぶ力と豊かな心を育てる

## 情報教育をめざして

～メディア活用で育てる情報活用能力、  
メディア活用で伸ばす確かな学力～





## はじめに

私たち川崎市立小学校情報教研究会は、これまでの研究会の取り組みと平成 23 年度に完全実施される新指導要領に基づき、「川崎の情報教育」の実現をめざして研究に取り組んでまいりました。

今、子どもたちは、高度に発達し進化し続ける情報化社会において「生きる力」を身につけていかなければなりません。情報を主体的に活用し、自ら学ぶ力の育成が求められています。また、情報化社会に参画する態度の育成も急務です。さらに、「情報」を介在として、人と人が伝え合い、理解し合い、共有し合う豊かな心を育むことも重要な課題です。私たちは、これらの教育現場に求められている様々な課題を広く包括するものとして「川崎の情報教育」をとらえ、その課題解決に向けて今年度の研究テーマを以下のように設定しました。

### 「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

#### — メディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力 —

子どもたちの学習を効果的に進め、確かな学力を保障していくためには、教室に設置された 50 インチの大型テレビや電子黒板、コンピュータ等の ICT を教師が適切に活用した授業を展開していくことが大切です。また、ICT のみにとどまらず、図書資料や映像、放送資料等の様々なメディアを効果的に活用していくことは、情報活用能力を育成していく上で必須です。教師のすべての教科・領域におけるこういった情報機器活用による授業改善によって子どもたちに情報教育の機会を積極的に設定し、ふれさせ、慣れさせ、その活用効果を実感させていくことが大事だと考えます。一方で、子どもたち自身にも、自らの探求学習において、これらの ICT を自由に活用できる力を身につけさせなければなりません。

本研究会では、教員による ICT 活用とともに、子どもたちによる ICT 活用の両面から研究テーマを具現化するために、年間 2 回の研究授業を行い、研究推進に努めてきました。日常的な活動としては、常任委員による各校・各学級での実践をホームページで公開する取り組み(一人一実践)を行っているところです。

また、長年にわたって実施している読書感想文コンクール・読書感想画コンクールやビデオ映像創作展といった子どもの豊かな心の育成と表現力の向上に関わる事業にも積極的に取り組み推進しています。

広報活動としては、ホームページや「情報かわら版」(研究会会報)を通して、研究会活動の発信に努め、共に学び合う体制作りを目指してきました。

ささやかですがこれらの研究会の取り組みを冊子にまとめました。この一年間の研究内容や実践をご覧ください、ご指導ご示唆をいただければ幸いです。

最後になりましたが、本研究会にいつも変わらぬご理解とご支援を賜りました川崎市教育委員会の皆様、川崎市総合教育センターの皆様方には深く御礼申し上げますとともに、今後のさらなるご指導とご協力をお願い申し上げます。

川崎市立小学校情報教育研究会  
会 長 栗田 博美

# 目 次

## はじめに

### I 研究報告

1. 川崎の情報教育	1
2. 今年度の研究	3
3. 授業実践	5
(1)「確かな学力」をテーマにした研究授業	5
(2)「情報活用能力」をテーマにした研究授業	11
4. 今後の課題(次年度へ向けて)	17

### II 事業報告

1. 平成21年度活動経過	18
2. 事業内容	20
(1)川崎市立小学校教育研究会大会	20
(2)夏季会員研修会	21
(3)読書感想文・感想画コンクール	22
(4)ビデオ映像創作展	23
3. Web サイト・情報かわら版	24

## おわりに

研究組織図	27
研究に携わった人	28

# I . 研究報告

## 1. 川崎の情報教育

### ○ 私たちの考える川崎の情報教育

私たち川崎市立小学校情報教育研究会は、「川崎の情報教育」を単に ICT 活用だけにせず、これまでの研究や研修で培ってきた「図書」や「映像・放送」などのメディアを活用しながら、「情報活用の実践力」「情報社会に参画する態度」を含めた広い意味での「情報教育」として捉えています。

子ども達の主体的な学習には ICT 活用だけにとどまらず、より多くのメディアから必要な情報を取捨選択し、加工し、表現していく中で、自ら学ぶ力が育成されることが重要だと私たちは考えています。さらに、情報機器によるコミュニケーションが日常的になっている現代社会では、得られた情報をもとに生き生きと想像したり、ルールを守って発信したり、受け取ったりするという双方向性の関係をより充実させ「心豊かな子」を育てることが大切だと私たちは考えています。

### ○ 心豊かな子を育てる情報教育

本研究会では前述した図書資料や映像・放送資料などを活用する「メディア活用」については、「日常の実践に『メディアを通して心を動かす』という活動を組み込む」ことを今年度も引き続き重視して行っています。これにより「心豊かな子を育てる情報教育」に迫りたいと考えています。

本研究会はこれまで図書資料や映像資料を活用した様々な実践を積み重ねてきました。その積み重ねの中に心を動かす図書教材や映像教材も多々ありました。そうしたこれまでの取り組みの上に、さらなる活用や実践を積み重ね、学びの主体である児童がメディアを適切に活用し、コミュニケーションできるようにすることにより、心豊かな子を育成していきたいと考えています。

### ○ 新しい学習指導要領の中での情報教育

平成 20 年 3 月に「新しい学習指導要領」が文部科学省より告示され、今年度より段階的に実施されることになりました。その中で情報教育や教科指導における ICT 活用など、教育の情報化に関わる内容について一層の充実が図られました。また「新しい学習指導要領」のもとで教育の情報化が円滑にかつ確実に実施されるよう具体的な取り組みを示した「教育の情報化に関する手引」も平成 21 年 3 月に同省より発表されました。

こうした教育の情報化の新しい流れと、これまで川崎市の情報教育が培ってきたことを踏まえながら今年度の本研究会の研究を進めていかれればと考えています。

平成 18 年に文部科学省より出された「初等中等教育における情報化に関する検討会報告書概要」の中の「情報教育の考え方の整理（教育の情報化と情報教育の整理）」では「各教科等において、情報機器を活用しさえすれば情報教育を行った、ということにはならない」「情報教育に位置づけられるためには、実際に指導を行う教員が、IT 活

用が子どもたちの情報活用能力の育成に、どのように資するかを理解した上で、指導することが必要」と記されています。それを受け、本研究会では昨年度までの取組から下記の図1のようにまとめてみました。

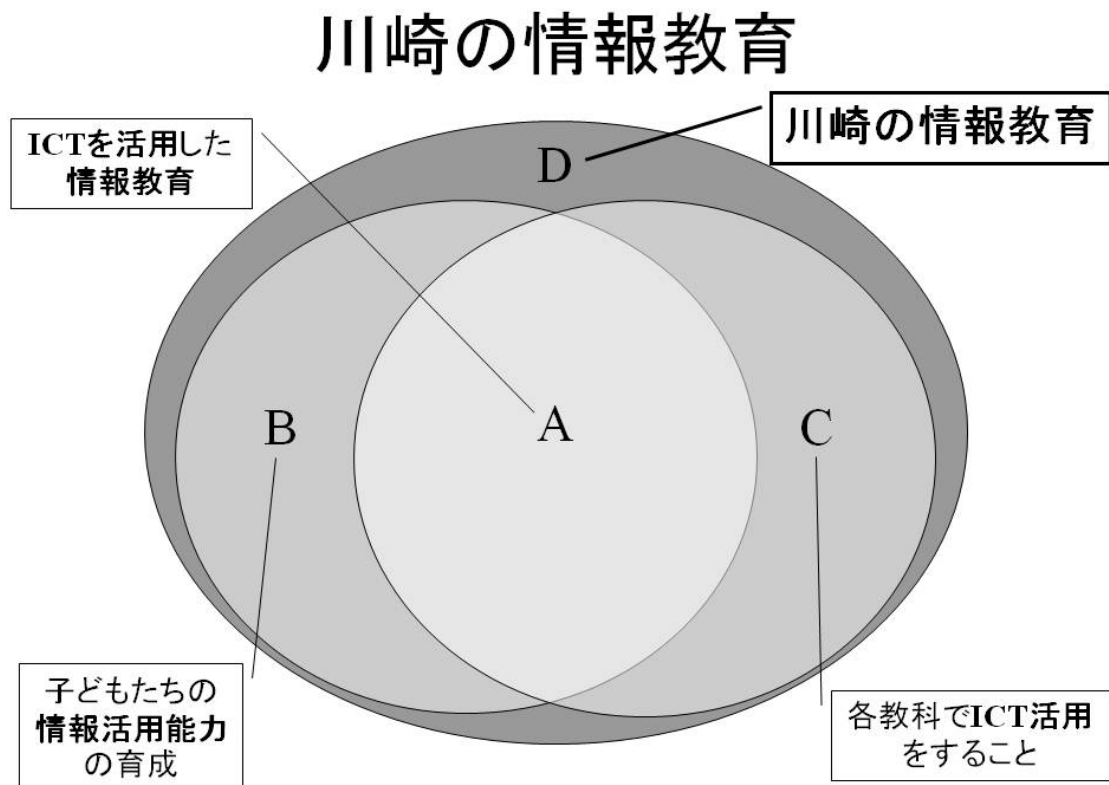


図1

私たちは、昨年度まで、取組の一部として主に ICT 活用を中心とした授業研究会や一人一実践等を展開してきました。しかしその際に単なる ICT 活用のみで終わらず教科の中で確かな学力を保証した上で、情報活用能力の育成も意識し取り組みました。(図1中のA領域)

新しい学習指導要の総則では、各教科等の指導において、子ども達がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に「適切に活用できるようにするために学習活動を充実する」と記されています。

私たちはこれまで同様、日常的に ICT を活用することで確かな学力を伸ばし(図1中A領域やC領域)、様々なメディアを活用することで情報活用能力を育て(図1中A領域やC領域)、心豊かな子の育成すること(図1中D領域)を今後も研究していきたいと考えています。

## 2. 今年度の研究について

### ○ 研究テーマ

私たちは「私たちの考える川崎の情報教育」「心豊かな子を育てる情報教育」「新しい学習指導要領の中での情報教育」の視点から、今年度の研究テーマを以下のように設定しました。

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

— メディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力 —

昨年度のサブテーマ「メディア活用で伸ばす確かな学力」というものに、「メディア活用で育てる情報活用能力」というものを加えました。これは教育の情報化の中で、各教科等において、教員による ICT 活用、子ども達による ICT 活用の双方の充実により、確かな学力を伸ばすとともに、子ども達の ICT 活用やメディア活用等を通じて情報活用能力の育成をすることをより明確にしたいと考えたからです。そしてこのテーマを具現化するために、常任委員による研究授業や一人一実践等を取り組んでいきたいと考えました。

### ○ 授業研究会

これまで述べてきたことを踏まて、今年度、私たちは研究のサブテーマでもある「メディア活用で伸ばす確かな学力」「メディア活用で育てる情報活用能力」という切り口で下記のような日程で授業研究を行いました。

#### 第1回授業研究会

「メディア活用で伸ばす確かな学力」についての授業研究

7月15日（水）

川崎市立下小田中小学校 関谷 洋平 教諭

※5年生理科「花から実へ」の单元内における効果的なICT活用をし、確かな学力を育成する授業

#### 第2回授業研究会

「メディア活用で育てる情報活用能力」についての授業研究

11月18日（水）

川崎市立南河原小学校 添野 雅美 教諭

※2年生生活科「まちたんけん」での年間を通じて情報活用能力を育成してきたことを生かした発表（情報伝達）の授業

「メディア活用で伸ばす確かな学力」「メディア活用で育てる情報活用能力」の2つの授業をとおして、これからの研究会の方向性や課題がみえた有意義な授業研究会でした。

また、2つの授業をより効果的にするために、授業後の協議会も工夫しました。「メディア活用で伸ばす確かな学力」では、授業内容を一つの提案として考え、その他にどのようなICT活用が効果的かを参加された皆さんとワークショップ形式で考えました。その結果「こんな使い方もあったのか」や「自分も来学期のあの単元でICTを活用して授業をしてみたい」などの感想をいただき、ある程度の成果を確認できました。「メディア活用で育てる情報活用能力」では、常任委員が年間をとおして、どのような教科等で、どのような単元のどのような場面で情報活用能力を育成しているか、簡単な表にしてまとめたものを配布して、協議会に臨みました。この表については、今年度は全体としてまとめる段階までいきませんでしたでしたが、次年度以降も継続し、情報活用能力の育成場面を明確にし、より多くの先生方が実践しやすいように示していきたいと考えています。

#### ○ 一人一実践

今年度も昨年度に引き続き、常任委員による一人一実践をまとめ、Web上で公開したり、印刷物を配布したりしました。この一人一実践では主にICT活用についての内容に重点を置いて配付したいと考えています。これは常任委員一人ひとりの力量を高めると同時に、多くの先生方に「より身近にICT活用ができる実践集」としたいと考え取り組みました。

また、今日的な課題である情報モラル教育についての実践集の作成も今年度は考えました。そのために夏季休業中に常任委員会内で研修を開いたり、平日の夜間に有志で研究会を開いたりして、共通理解や情報モラル教育に対する意識を高めました。こちらの一人一実践は現在、製作中です。



### 3. 授業実践

#### (1) 「確かな学力」をテーマにした研究授業

1. 単元名 5年 理科「花から実へ」
2. 単元目標

○植物の花のつくりやみのでき方に興味をもち、見出した問題を計画的に追究する活動を通して、花の役割や受粉と結実との関係をとらえるとともに、声明を尊重する態度を養い、生命の連続性についての見方や考え方をもちようとする。

#### 3. 単元の流れ

##### 第1時 カボチャの花のつくりを詳しく観察しよう

○花のつくりに興味をもてるように教材園の観察をした。

花のつくりに着目できるよう、花びらの中や、花の根元を見るように声をかけた。子どもたちは、花びらの形は同じであること、花びらの下にはふくらみがあるものとないものがあることに気がついた。また、他の花との違いも意識しながら観察をさせた。いろいろな花におしべやめしべがあることに気づけるようにするためである。

この時間では、「いろいろな花のつくりの違いに興味をもち、いくつかの花を観察する子」「カボチャの花のつくりをじっくり観察し、スケッチする子」「花のつくりに興味をもって観察したが、どこをどのように記録していいかわからない子」など、反応がさまざまである。

この時、「観察はしたが、記録ができない」ということがあると、次の学習への意欲が低下したり、花のつくりについての知識が確かなものにならなかったりする懸念がある。

そこで本時では、スケッチを通して花のつくりを観察することを大切にしながら、スケッチがはかどらなかった子どもにはデジタルカメラを利用して自分で気がついたことを記録するようにした。

この学習をした時、おばなは咲いていたが、めばなはひとつしかなかった、子どもたちは違いに気がつき、デジタルカメラで記録をしたがっていた。記録の補助的な役割として、デジタルカメラを利用したが、学習意欲の喚起にもつながったようである。



記録の補助的な役割としてのデジタルカメラの活用。どの子どもでも観察の記録を残せる。

##### 第2時～第4時 花のつくりはどのようになっていたらうか。

カボチャのおしべとめしべは、どんなところで違うのだろうか。

○第1時で気がついたことを発表し、花のつくりをとらえた。そして、顕微鏡や虫眼鏡などをつかって、花のつくりや花粉などを観察し、記録した。

まず、第1時で、観察して気がついたことを発表した。自分が見たことを伝えられるように、前時で利用したデジタルカメラの画像や、記録し



観察したことを共有するために、画像を大きく映し出す。教師が意図的に画像を選ぶことで、必要な知識を確実に伝えることができる。

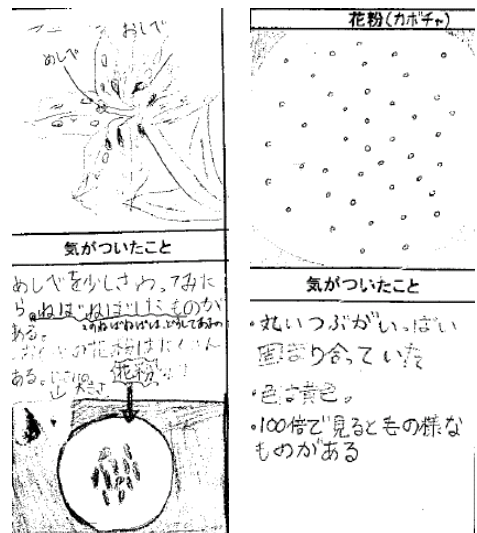
たノートをパソコンや教材提示装置、プロジェクタを使ってスクリーンに投影した。見せたいものを大きくしたことで、カボチャの花のつくりを丁寧に学習することができた。

次に、ユリ（両性花）とカボチャ（単性花）の違いを確認し、おしべとめしべの違いを観察し、記録した。両性花と単性花の違い、おぼな、めばなの違いを確認できるように表を使って整理するようにした。ユリの実物の観察で、子どもたちは一つの花におしべやめしべがあることを確かめていた。

また、この時のカボチャの観察ではめばなは咲いていなかったが、おぼなの数は1時間目より増えていたので子どもたちは、よく触りながら観察していた。おしべを触ることは、花粉の働きを考えるときのヒントとなるので、どんな感じがした問いかけ、記録するように促した。咲かなかっためばなについては、教師が撮影した写真をスクリーンに映し画像を大きくして教室で記録した。

カボチャの花の観察で、この段階では、めしべに注目して観察することはできなかったが、おしべを確かめることができた。そして、ハチが花の中で蜜をすっている様子も観察することができた。

この学習では、顕微鏡の使い方を技能として定着させる。この時間まで、「でんぷん」「メダカの卵」「微生物」の観察で顕微鏡を使っているが、これまでの観察では、対象に焦点を合わせるのに時間がかかっている。そこで、ビデオカメラで顕微鏡を使う様子を取り、スクリーンに映すようにして、全員が使い方を確認した。その結果、ピントの調節もスムーズに進み、じっくりカボチャの花粉の様子を観察、記録することができ、ユリの花粉も同様にすることができた。



映像を見ることによって観察の仕方を分かりやすく伝えた。記録の時間を十分に保障することができる。

第5時～第7時

(研究授業5時間目)

どのようにして、めしべの先に花粉がくっついたのだろう。  
受粉するかしないかで、実のつき方に、違いがあるだろうか。

○めばなの先にどのようにして花粉がくっついたかこれまでの記録を使って考え、実のつきかたについて考えた。

(本時)の流れ

第4時まで、咲かなかっためばなが本時の朝に咲いた。朝にしか咲かないので時間をつくり、観察をしめしべの感触を記録させた。そして、短い時間の観察だったのでその様子を教師がデジタルカメラで保存した。

本時の導入では、前時の振り返りと、課題(「どのようにして、めしべの先に花粉がくっついたか」)を考える手助けとして、教材提示装置とデジタルカメラで撮影した画像を利用した。教材提示装置で前時までに記入した表をみせながら、観察して気がつい

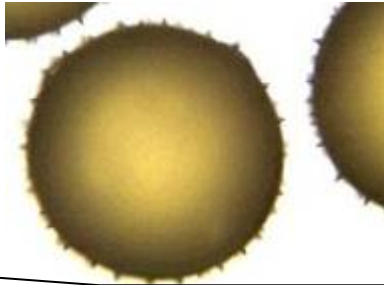


たことをできるだけ多く発表した。教材提示装置には、子どもたちが自分で作ったものをそのままの形で見せられる良さがある。また、教師側が見せたい部分を強調して見せることができる。また、デジタルカメラでは観察した時の体験が思い出せるような映像や話しあうための土台となるための必要な知識として画像を用意した。つまり、子どもたちのかいたものや写真を利用して、「どのようにして花粉がくっついたか」を考える手立てとした。

子どもたちは、スクリーンに映し出した映像をもとに、花のつくりや色、おしべやめしべの触ったときの様子を発言することができた。花粉の形について、「とげとげしている」という反応がでた。このように気がついたことを共通理解した後、話し合いをした。この話し合いに際し、教師側から導入で見せた。写真を用意することで、自分が考えたことを写真を指さしながら友だちと意見交換できると考えたからである。

観察してきたことを伝える手立てとして教材提示装置を活用した。

グループで出た意見を全員で共有するために、再度教材提示装置を利用した。子どもたちは、写真を使って、「おばなの花粉がめばなに運ばれる。」「花粉のとげとげが虫にくっつく。」「はちが運んでいる。」という意見を発表することができた。



話し合いの土台作りとして、写真を活用した。観察が十分にできなかった場合でもここで知識を共有すれば、話し合いに参加することができる。

#### 6時以降

5時の学習で発表したことを確かめる方法を考えた。どういう条件が必要かそれを確かめるためにどのような実験をすればよいか話し合った。受粉させた場合と受粉させなかった場合、めばなのふくらみが増えるかどうか予想した。教材園にめばながほとんどなかった状態なので、咲いたものに受粉することを確認し、受粉させない場合の結果は映像教材で確認することにした。

映像教材を利用する理由はほかにもある。カボチャの花が受粉してから実のなるまでには時間がかかるということである。今回は受粉した時期が遅かったため、実験結果を確認するためには、どちらにしても映像教材が必要であった。

映像教材は利用したものの、これまでの観察や話合で考えた結果、子どもたちは理解をしやすかったようである。

#### 第8時 植物の一生をふりかえろう

○写真を見せることで、植物の一生を振り返った。

これまでに育ててきたことのある花や種の写真をみせたり、植物の発芽と成長の学習を振り返ることで植物の連続性に興味をもてるようにした。子どもたちは、カボチャの花「ハチが受粉さ

せる役割をしていたけど、他の花では何が受粉させる役割があるのか知りたい。」と興味をもっていた。

#### 4. 単元を終えて

本単元では、「確かな学力」をテーマにした研究であり、デジタルカメラや教材提示装置を活用した場面を多く取り入れた。

これまでの自然観察の記録から、子どもたちの視点は様々であることに気がついた。たとえば、一つの花を茎から花まで広い視野でとらえてかいたり、花びらが大きくなるようにして花のなかをとらえてかいたり、である。この単元の学習では、広い視野（花の数）と限定的な視野（花の中）など、多様な見方で子どもたちの気づきがふえると考えデジタルカメラを利用し、授業で発見したことを共有できるようにした。

また、カボチャの花の咲く時間は午前中の限られた時間でしかない。規模の大きい学校だったり、天候が不順であったり、植物が病気になったりと、常に子どもたちの観察の時間を確保するのが難しいこともある。そこで、教師は毎朝カボチャの手入れをし、子どもたちが観察をできなかった場合に備え、単元の学習に必要な資料を用意した。

教材提示装置やデジタルカメラなどの機器を利用することは、知識を共有することに役立つ。そして、教師が意図的に共有する情報を選ぶことで、話を活性化させたり、学習への意欲を喚起させることができると考える。花粉の拡大写真を見せた時に「おー。」という反応があったが、花粉の特徴をはっきりと認識できたからだと思う。

#### 5. 課題

子どもたちに資料を提示する場面でいくつかの課題が見えた。それは、資料を提示する場合その資料は必要か、その他に変わるものはないか、ということである。たとえば、教師が撮影した写真ではなく、子どもたちが撮影した写真や観察・記録のノートを見せた方が自分たちのものが映っていると、意欲の高い状態で学習を進めることができる。

そして、資料の内容である。どのような内容であれば、子どもたちは発言しやすいか考えて準備することが課題である。たとえば、「あれ？」と子どもたちが思える内容の資料を提示することである。このような資料があると子どもたちからの疑問をつくることができる。教師がどんな発問をしたかったか、どんな支援をしたかったか、それが伝わる写真・資料を準備することが大切である。

最後に、資料を見せるタイミングである。これは、子どもへの発問やキーワードの板書と同じように考えなければならない。たとえば、「花粉が風によって運ばれている理由」を考えているときに、「虫が花の中にいる写真」を見せたらどうだろうか。子どもが「花粉の大きさや重さ」に着目して思考することを「虫」によって妨げられてしまう。教師の気付かせようという意図が強いと、子どもたちの発想が制限され、話し合い活動をしていても結論が決まっているなかでの話し合いになってしまう。つまり、子どもたちの思考に合わせて、資料を提示できるようにしなければならない。

これらのことを考慮して ICT を活用すると、知識を共有させたり、思考のきっかけをあたえたりすることができる。そして、活用の仕方や活用の場面を使い分けることによって学習効果を上げることができると思われる。

(2)「情報活用能力」をテーマにした研究授業

第2学年2組 生活科学習指導案

指導者 添野 雅美

1. 日時・場所 平成21年 11月18日(水) 第5校時 多目的教室

2. 単元名 すてきはっけん! みなみがわら

3. 単元目標と評価規準

(1) 単元目標

- ・自分たちの生活の場である地域や人とかかわることを通して、自分たちの住んでいる町のよさを発見し、親しみをもつことができる。
- ・地域とのかかわりを通して気づいたことや分かったことを自分が工夫した方法で表現することができる。

(2) 単元の観点別評価規準

ア生活への 関心・意欲・態度	イ活動や体験についての 思考・表現	ウ身近な環境や自分について の気づき
地域の人々とそのくらしに関心をもつとともに、それらに親しみを持ち、自分の生活を広げようとしている。	見つけたことや、気づいたことを自分が選んだ方法でまとめたり、友だちに伝えたりすることができる。	活動を通して、自分たちの生活は、町に住む人々とかかわっていることや、それらとかかわることの楽しさ、町のよさに気付くことができる。
①今までの学習をふり返り、新たな町のすてきを調べようとしている。 ②町の人に、聞いてみたいことを自分なりに考え、町の人のお話を聞こうとしている。 ②くわしく知りたい人や場所を決め、すすんでインタビューの準備をしている。 ②町の人とかかわることを楽しもうとしている。 ②町の人のお話を詳しく知ろうとしている。 ③町のすてきを発表する方法を考え、すすんで発表の準備をしたり、表現したりしようとしている。 ③友だちの調べた町のすてきを交流しあっている。	①自分が詳しく知りたいことを決め、調べることやインタビューすることをワークシートに書くことができる。 ②町の人に聞きたいことを考えながらインタビューができる。 ②町の人とのインタビューで分かったことや気づいたことをワークシートにまとめることができる。 ③調べて分かったことを工夫してまとめることができる。 ③友だちにわかりやすく伝える方法を考え、すすんで発表の準備をしたり表現することができる。	①今までの活動をふり返り町にはいろいろなすてきがあることに気付いている。 ②町の中に、親しい人ができたことに気付いている。 ②今まで知らなかった町の人のお話や願いに気付いている。 ③友だちが調べた町のすてきの発表から、友だちが調べた町のよさに気付いている。

4. 単元について

(1) 子どもの実態と教師の願い

本学級は男子14名、女子18名の計32名で、明るく素直な子が多い。何事にも素直で前向きな反応が返ってくる。学校生活を楽しみ、友だちと仲良くしようとする姿が見られる。しかし、学習の場

面では自信のなさから意見を言うことに消極的な子が多いため、朝のスピーチなど人前で話す時には書いたものを見ながら話すようにしている。学校生活全体を通して、自分の話したことが友だちに伝わることの楽しさ、友だちと話し合うことの楽しさを感じさせていき、自分の考えを伸び伸びと表現できる子になってほしいと思う。そのために有効な手立ての一つに情報機器の利用があると考えている。言葉による表現が十分でない場合、デジタルカメラやビデオ等の映像は、大きな助けとなるのではないか。本単元では子どもたちの表現活動を支えるものとして、映像に関わる機器を利用していききたい。

また、本単元ではお店で働く人に話を聞いてくるなど地域の人と積極的にしかかわることを目指しているが、大部分の子どもたちは馴染みのない大人と話す経験が少ないため、戸惑うことが予想される。これまで経験してきた人とのかかわりを思い出させ、頑張って取り組もうという意欲をもたせたい。また地域の人とのかかわりを大切にする活動を通して、これからも親しみを持って地域の人と接していけるようにしたい。このような人との良い関係作りには、どのようにコミュニケーションをとっていけば良いのかを子どもたちに考えさせ、教えていく必要がある。これは情報教育の重要な役割だと考えている。2年生の段階にあった取材やインタビューの方法について学ばせ、実践させていきたい。

## (2) 単元設定の趣旨

本単元は、主として学習指導要領に示された【(3) 地域と生活】の内容である。前期の「すてきはっけん！みなみがわら」の学習では、学区全体を探検した。広い学区を歩く中で、町のいろいろな建物や自然に目を向けて活動した。そのなかで、もう一度よく知りたい場所（商店街、お店、公園、建物）はコース別に町たんけんを行った。知りたい場所をよく見る活動から、子どもたちは今まで知らなかったことが分かり、学区にあるすてきを発見することができた。

9月からは、学区にあるお豆腐屋さんとお菓子屋さんとの交流をしてきた。ここで、地域に暮らす人々とかかわることで新たな発見ができる嬉しさや、人とかかわるの楽しさを感じることができればと考えた。

後期2度目となるこの「町たんけん」ではこれまでの学習を生かし、地域の様々な人とかかわりをもたせることに重点をおいて、南河原のすてきを発見できるようにしたい。地域に暮らし、仕事に誇りをもち工夫しながら働く人の思い、子どもたちを温かく見守る人の思いなどに気づくようにさせたい。そして、自分たちが住んでいる町を大切にする子どもを育てていきたい。

## (3) 本単元と情報活用能力

### ICT活用で意欲を高め、思考・表現を支える

児童は低学年ということもあり、これまではICT活用の経験があまりなかった。2年生になり、前期に活用したICTは、デジタルカメラ、実物投影機であるが、これはどちらも教師が児童や児童の作品を撮影したり、学習教材を提示したりすることに使用してきたもので、児童が自ら使用して何かを作ったり発表したりということはなかった。しかし、実態にあるように、自分の考えを発表したり学習内容をまとめて表現したりすることが苦手な児童が多い本学級において、「調べたことを発表する」という表現活動が重要な本単元では、情報機器の利用が有効であると考えられる。そこで機器の利用に慣れることをめあてに、9月から日直のスピーチにデジタルカメラで撮影した画像を利用するという活動をスタートさせた。これは担任が準備した2台のカメラを日直の二人が持ち帰って撮影し、次の日の朝の会で発表するという形式をとっている。撮影してくる内容は、「自分の大切にしているもの」「好きなもの」「頑張っていること」などである。家の中の様子を撮影してみんなの前で発表するというプライバシーに関わる活動であることから、スタート前に各家庭にお願いの手紙を配布して協力を得た。まだカメラの操作に慣れることが中心であるが、どの児童もカメラの持ち帰りをとても楽しみにしており、一生懸命に撮影してきた写真を嬉しそうに発表している。「見ればわかる」という映像の良さに、発表の緊張も和らぐ様子が見られる。聞くことが苦手な児童が多い学級であるが、この発表時は真剣に見聞きしている児童が多く、質問も多く出されて子ども同士のやり取りが活発であ

る。映像の活用が興味・関心を高めたり、理解を助けたりしていることが感じられる。本単元では様々な発表方法の中から自分の伝えたいことがうまく伝わると思われる方法を児童が選択するが、このような ICT 活用の経験が「カメラを使ってお店の中のことがわかるように撮影してきたい」「ビデオなら、行っていない人に〇〇さんの話を聞いてもらえるな」等のように活動への意欲を高めたり、実際に取材したことについての思考・表現を支えたりできるのではないかと考える。

#### 人とのかかわりを通して、大切な情報を

本単元では、地域にすむ人との関わりが重要である。これまで児童が体験してきた人との関わりは、学年・学級の友だちとの活動、学級内での学習における発表や対話、グループでの発表などが主であり、生活科の「学校たんけん」で1年生に学校の様子を教えたり案内したりする活動を行ったが、上手に説明ができたグループは少なかった。また「たてわり活動」に参加しているが、上級生や教師の働きかけに応じて一緒に遊ぶことがめあてであり、自分から何か働きかけるといことはまだ特に設定されてない。まだまだ教師対自分が中心の生活である。その児童が地域に出て取材活動することは、戸惑いや緊張があるだろう。けれども、ここで人と触れ合い、自分に語りかけてもらう活動をすることで、大切な情報を得ることができ、身近な環境や自分への気づきを深められるのである。

そこで、前の単元「だいつのへんしん」の活動で、「見学や取材の時に気をつけることはなんだろう」として、見学時のマナーや質問の内容、また質問の仕方について考える時間を設けた。これまでの国語の「聞く・話す」の単元で話の聞き方や伝え方について学習してきたことを基に考えたが、ここでは大人である地域の人が相手であることから、「丁寧に話そう」「です、ます、を使おう」「はっきり話さないと、聞こえないかもしれない」のような内容が子どもたちからすぐにあげられた。また、質問の内容や自分がよく見てきたいものをカードにまとめてから取材に行くことや、質問の仕方を練習していくことなどを確かめて、活動した。ここでの経験が本単元での取材活動に生かされると考える。

#### 児童とこれまでの情報教育の経験

	ICT 活用	表現方法	取材・インタビュー
内容	OHC、デジタルカメラ パソコン	文字、音声、絵 劇化、紙芝居 デジタルカメラ	国語「きいたことをもとに書こう」 ・友だちに夏休みについて質問する。 生活科「学校あんない」 ・児童によって、校長に質問する。

#### これからの姿

本単元、またこれまでの児童の体験を基に、この先、更に情報活用能力を育て伸ばしていくことを望んでいる。今回は表現方法として主にデジタルカメラを使用した、「撮影したものを印刷して提示する＝絵のより詳しい形」としての意味合いが強かった。高学年ではこれをデジタル素材としてパソコンに取り込んで加工したり、作ったものを対象を決めて発信したりという活動につなげていきたい。高学年で一足飛びに情報技術や情報の特性を教えることは難しい。低学年から段階をおって体験させたり教えたりすることが大切であると考え。

5 単元の構想 10時間 (本時 8/10)

<p>子どもの願いや思いと学びの姿</p>	<p>第1次 ①今までに出会った人や場所を思い出そう ・ 町たんけんでは、いろいろなお店を見たと、もつとくわしく知りたいな。 ・ 豆腐屋さんは豆腐の作り方を親切に教えてくれたね。 ・ 和菓子屋さんは南小まんじゅうも作ってくれているよ。 ②みなみがわらでもっとすてきな出会いをしよう ・ カピロードや茶通り商店街はお店がたくさんあるからすてきな出会いがまきまきそうだね。 ・ おいしいパン屋さんの話を聞きたいよ。</p>	<p>第2次 ③たんけんの計画を立てよう ・ 商店街のお肉屋さんに行こう。パン屋さんに行こう。 ・ あいさつやおねいはしっかり言えるようにしよう。 ・ 聞きたいことをメモしておこう。 ④⑤町たんけん「すてき」や「ひみつ」を見つけよう ・ おすすめ品物は何ですか？ ・ 何年前からお店をやっているんですか？ ・ どうして、南小に開店したものを売っているのですか。</p>	<p>第3次 ⑥⑦町たんけんで見つけた「すてき」や「ひみつ」をまとめて発表しよう (本時⑧) ・ お肉屋さんでやっていたことを、みんなに見せたいな。 ・ 紙芝居にしようかな。 ・ 写真をみんなに見せよう。 ・ クイズをつくって出そう。 ・ もう一度〇さんに聞きたいことようもらおう。 ・ 友だちに見てもらいたいアドバースをしてもらおう。 ・ あれから、自分でもお店に行ったり、そのことを話そう。</p>	<p>第4次 ⑧みなみがわらのよさをまよめよう ・ 活動を振り返り、みつけたみなみがわらのよさをみんなと共有する。 ・ みんな、親切だったね。 ・ 〇〇に、びっくりしたね。 ・ 嬉しいかった。お礼をしたいな。 ⑨おねいの気持ちを伝えよう ・ お話をしてくれた町の方にお礼の手紙を書こう。 ・ これからも、仲良くしてほしいな。どうぞね。 ・ たんけんのお店さんとお店に行ったり、また行きたくてすてきそう。 ・ 撮った写真を一冊に入れよう。 ・ 楽しに行こう。</p>	<p>支援</p>	<p>・ 前単元の学習を振り返り、町たんけんにより新しい発見ができたことに気づいていけるようにする。 ・ 今までに調べてきた資料(生活科カード、マップ)を提示し、活動を振り返ることができるようにする。</p>	<p>・ 今までの活動の中でもっとも楽しかった瞬間を調べたり、自分の気づいたことをたしめたりするために、振り返りたんけんしたりインタビューしたりできるようにする。 ・ 調べたいことや、インタビューしたいことをカードに書き、しっかりと準備をしてから町たんけんに行けるようにする。 ・ 事前に地域のひとと打ち合わせをして、子どもたちに伝えたいことなどを確認する。 ・ 保護者に協力を呼びかけ、放課後の時間を活用して調べに行けるようにする。 ・ 発表の方法について話し合い、いろいろな方法を考えられるようにする。</p>	<p>・ 発表の練習では、一人一人と話しなから交換していく。 ・ 発表の準備をする中で、もう一度調べにいたり、道具等を使いに行ったりしたいという原簿がいきた場合は、放課後の時間等を使って対応する。 ・ 様々なまよめ方や発表方法があることに気づかせ、伝えたい内容に合ったやり方を選択できるように支援する。 ・ お互いのもつ情報を共有し合って、より良い発表(お店の紹介)ができるようにさせる。</p>	<p>・ 地域のひととかがわらって思っていたこと、友だちの発表を聞いて思っていたことを入れて書くように伝える。</p>	<p>子どもの姿からの評価</p>	<p>&lt;関心・意欲・態度①&gt; ・ 今までの学習を振り返り、町のすてきについて紹介しようとしている。&lt;行動・ワークシート&gt; &lt;気づき①&gt; ・ 今までの活動を振り返り、町にはいろいろなすてきなことがあることに気づいている。 &lt;行動・シート&gt;</p>	<p>&lt;関心・意欲・態度②&gt; ・ 町のひとに、聞いてみたいことを自分なりに考え、町の人の話を聞こうとしている。&lt;行動&gt; ・ くわしく知りたい人や場所を求め、すすんでインタビューの準備をしている。&lt;ワークシート&gt; ・ 町のひととかがわらすることを楽しもうとしている。&lt;行動&gt; ・ 町の人のことを詳しく知ろうとしている。&lt;行動・シート&gt; &lt;思考・表現②&gt; ・ 町にあるお店や町のひとに関心をもち、聞きたいことを考えて質問することができる。&lt;行動・シート&gt; ・ 自分が詳しく知りたいことを求め、調べることやインタビューすることをカードに書くことができる。&lt;シート&gt; ・ 町のひとに話を聞くときの話し方を工夫することができる。&lt;行動&gt; ・ 町のひととのインタビューで分かったことを気づいたことをワークシートにまとめることができる。(シート)</p>	<p>&lt;関心・意欲・態度③&gt; ・ 町のすてきを発表する方法を考え、すすんで発表の準備をした。発表したりしている。&lt;行動&gt; &lt;思考・表現③&gt; ・ 自分が調べた町のすてきについて自分なりに工夫した方法でまよめ、発表することができる。&lt;発表の様子&gt; &lt;気づき③&gt; ・ 町の中に、親しい人ができたことに気づいている。 &lt;発言・カード&gt; ・ 今まで知らなかった町の人の思いに気づいている。友だちが調べた町のすてきを交流しながら、みなみがわら町のよさに気づいている。&lt;発言・シート&gt;</p>	<p>&lt;関心・意欲・態度&gt; ・ 町のひととかがわらすることを楽しもうとしている。 &lt;発表の様子、手紙&gt; &lt;思考・表現&gt; ・ 友だちが調べた町のすてきを交流しながら、みなみがわら町のよさに気づいている。&lt;発言・手紙&gt;</p>
-----------------------	---	--	---	--	-----------	--	---	--	---	-------------------	--	--	---	---



6 本時について (8/10)

- (1) 本時の目標 町たんけんで見つけたお店のよさを、友だちに伝えることができる。  
みなみがわらのお店のよさに気づくことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	支援(○)と具体的評価規準
<p>1. 本時のめあてを確かめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>町たんけんで見つけた、「すてき」や「ひみつ」を友だちに伝えよう</p> </div> <p>2. 町たんけんを通して見つけたすてきを紹介しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私が紹介したいのは「こわだやさん」です。おいしいものをたくさん売っているお店で、特にコロッケがおいしそうでした。シェウマイの作り方も教えてくれました。</li> <li>・ぼくが紹介するのは「かわだスポーツ」さんです。南小の体操着が飾られています。名札も扱っているそうです。南小の昔のことも知っていて、びびくりしました。</li> </ul> <p>3. 友だちと紹介しあった中で、初めて知ったことや、考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんお話をしてもらって、嬉しかったです。</li> <li>・お店のことは知っていたけど、○○とは知りませんでした。</li> <li>・南小や私たちと関係がある人が多いと思いました。</li> <li>・私も○○に行ってみてみたいと思いました。</li> </ul> <p>4. 次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を持ってお礼に行きたいです。</li> <li>・お礼に行った時に、友だちが紹介した物を見たいな。</li> </ul>	<p>○発表のための機器や場の設定を行っておく。</p> <p>○自分たちが一番伝えたいことをタイトルにして、伝えたい内容が明確になるようにしておく。</p> <p>○話し手と聞き手のめあてを明確にして、自分の活動とくらべながら聞けるようにする。特に聞き手は、内容と発表の方法の二つの視点ははっきりとさせる。ワークシートを準備しておく。</p> <p>○グループで、発表の進め方を考えさせておく。</p> <p>○友だちの発表を聞いて、もっと知りたいことがあったら、質問してよいことを知らせる。また、発表を聞いての感想もあれば伝えるようにさせる。</p> <p>○話題になった場所をみんなで確かめられるように、地図を掲示しておく。</p> <p>○もっと、たくさんさんの発見をしたり、町の人と仲良くなったりしようという期待もてるような時間にする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>評価</p> <p>町たんけんで見つけたお店のよさを、友だちに伝えている。 みなみがわらのお店のよさに気づいている。 &lt;気づき&gt;</p> </div>

## 7 成果と課題

### 情報の受信・収集者として

本単元の活動を通して、子どもたちは地域の方々の南河原小への思いやそれぞれのお店の良さに気づくことができました。またお礼に行った際には「またおいでね」と声をかけてもらったと嬉しそうに話しており、これからは生活や学習の場でコミュニケーションをとっていくことに意欲を感じている様子がうかがえた。取材先だったお店については、その後も「開校記念日の南小まんじゅうは〇〇さんのおまんじゅうだよ」「体操着が小さくなったから、□□さんに買いに行くよ」のように話題にあがることも多く、自分が実際に会って取材をすることが子どもたちにとっては大切な経験であったことが感じられた。自分の知りたいことを調べる活動にはいろいろな方法があり、これから先は直接の取材だけでなく本やインターネット等を利用する機会も増えていこう。そういった活動に先立ち、低学年で取材のために足を運ぶことや人との関わりを大切にしておくことは、「知りたいことがあったら自分から調べに行こう」という姿勢や、「本やパソコンの向こうには相手（作り手）がいて、それぞれが大切に思っていることを伝えようとしているのだから、その気持ちをしっかり受け止めよう」という姿勢を育てることにつながると考えた。今後も情報の受信・収集者としての資質を高めるために、低学年からできる活動を整理して実践していくことが必要であると思う。



### 情報の発信者として

本単元では取材して集めた情報や考えたことを発表する場面では、絵、ペープサート、写真、クイズ等の方法がとられた。後期から取り組み始めた写真を使った朝のスピーチは子どもたちに身近なものとなり、本単元でも発表方法の一つとして自然にあげられた。絵が苦手な子や、全体の様子を知らせたい時など、人や場面に応じて効果的に使えるように指導していきたい。また、ともするとただ写真を見せて終わってしまいそうになる子がいるので、写真だけではわからないことを言葉で補いながら自分の考えを伝えようという指導を続けていく必要があるだろう。

今回担任が紹介したビデオを使っでの発表方法も子どもたちは興味をもった。生活科のお手伝い発表会で皿洗いの様子を撮影してきて発表した子がいたが、食器のたてる音や水の音、友だちが慎重に洗う様子に、みんなが集中して見ていた。その場に行かなければわからないことや、実物を見せるのが難しいものについての紹介に使っていきけることに気づき、機会があったら使っていきたいと感じたようである。そこで、教育実習生へのビデオレターを作ろうと話し合い、一人一人のメッセージを撮影した。個別の取り組みはまだまだ先になると思われるが、動画という方法があることにふれておくだけでも子どもたちの可能性は広がると考えたからだ。たくさんの発信方法の中から、自分の伝えたいことが最もよく表せる方法を選んでいける力をつけていきたい。



#### 4. 今後の課題（次年度へ向けて）

今年度の研究では、ICTがより手軽に確かな学力を育成するために、効果的であることを確認できたり、情報モラル教育について常任委員の意識を高めたり共通理解したりすることにより、今後の方向性が見えてきました。また、情報活用能力の育成に向けて、各自が意識的に取り組んだ記録を表にまとめることにより、今後、より多くの人取り組みやすくするための手立てとして有効であろうということが見えてきました。以上のような成果をもとに、次年度へ向けた取り組みや課題を整理すると以下のようなことが考えられます。

##### ○ 授業実践（研究授業）

今年度の授業実践（研究授業）では、より多くの方が明日からでもすぐに取り組めるためもの（ICT活用＝確かな学力）と、研究会としてこれまで取り組んできたことを継続してきたことを確認したもの（情報活用能力の育成）という形で行って来ました。来年度も基本的には、同じような形で行っていきたくて考えています。とりわけICT活用の面では、多くの教室に大型テレビが設置されたり各校に1台電子黒板が導入されたりしている中「どう活用すれば良いか」というような疑問について、実際の授業を通じて提案できるような研究授業を考えていきたくて思っています。また、情報活用能力の育成の面でも、常任委員が取り組んでいることを、より分かりやすく整理して、わかりやすく研究成果としてまとめていく必要があると感じています。そのためにも、来年度はそのようなまとめかたが有効かを考え、検証していきたくて思っています。

##### ○ 一人一実践（情報教育の実践事例集）

ICT活用の一人一実践（情報教育の実践事例集）は、色々な学年で様々な教科の実践事例をこれまでに示してきました。しかし、大型テレビや電子黒板の実践事例は、これまで機器が無かった関係であまりありません。次年度は大型テレビと電子黒板に特化した実践事例集を作成したいと考えています。また、情報モラル教育の実践事例集も引き続き作成し、完成を目指していきたくて思っています。

##### ○ その他

より多くの先生方、とりわけ情報教育研究会の会員の先生方に、必要な話題や実践の情報提供を今後もしていきたいと考えています。今年度末に各学校に「情報かわら版」で大型テレビの設置方法や簡単な活用の仕方の特集して配布しました。こうした現場に必要なものを今後も提供しながら、研究会としてより活動の場や一緒に活動する仲間を増やしていきたいと考えています。

Ⅱ 事業報告						
1. 平成21年度活動経過						
月日	曜日	時間	活動名	会場	内容	
4/8	水	18:00	拡大事務局会	久本小学校	・21年度新体制	
4/15	水	15:30	総会準備委員会① (お知らせ)	下沼部小学校	・21年度活動計画案、組織編成 ・年間計画について ・研究について ・総会計画、役割分担	
4/23	木	15:30	名簿作成委員会	苅宿小学校		
		18:00	拡大事務局会	下沼部小学校	・研究 ・研修 ・総会にむけて	
5/11	月	18:00	総会準備委員会② (お知らせ)	下沼部小学校	・研究会総会準備 (冊子、次第の確認 提案練習) ・主任会について (内容、進め方、役割分担の確認)	
5/13	水	14:00	川崎市立小学校情報教育研究会 総会 ・20年度 活動報告、会計報告 ・21年度 活動計画、会計予算案、役員選出 ・研究報告会 田中先生と橘先生の実践報告会			会場 川崎市立下沼部小学校
5/20	水	3:30	常任委員会③	下沼部小学校	・研究の推進 第1回 授業研究会に向けて ・主任会の準備と確認	
6/3	水	3:30	主任会 情報主任 視聴覚主任 図書主任	下沼部小学校	・視聴覚主任の仕事 ・図書主任の仕事 読書感想文コンクール募集要項 学校図書館の運営について	
6/10	水	13:30	教育課程授業研究日			
6/17	水	13:30	教育課程授業研究日			
7/1	水	9:00	常任委員会⑤	下沼部小学校	・読書感想文について ・小教研大会について ・夏季研修会について	
7/7	火	18:00	常任委員会⑥ (お知らせ)	下小田中小学校	・第1回 授業研究に向けて (指導案の綴じ込み)	
7/15	水	13:30	第1回授業研究	下小田中小学校	授業者 関谷 洋平	
7/28	月	9:00	小教研第48回研究大会	幸市民館 商業高校	提案 山口・加藤	
8/3	月	9:30	常任委員会⑦	下沼部小学校	AM 常任委員会 PM 研修会	
		13:00	会員研修会	下沼部小学校	・読書感想文について ・ウイルスバスターの講演会	

月日	曜日	時間	活動名	会場	内容
9/2	水	15:30	常任委員会⑨	下沼部小学校	・読書感想文について (地区審査、全市審査など) ・ビデオ映像創作展について
9/16	水	13:30	読書感想文 地区審査	久本小学校	・読書感想文地区審査
9/19	土	9:00	常任委員会⑩ (お知らせ)	下沼部小学校	・読書感想文全市審査
10/7	水	15:30	常任委員会⑪	下沼部小学校	・第2回授業研究会に向けて ・ひとり一実践について ・読書感想文表彰式にむけた作業
10/20	火	放送教育・視聴覚教育 合同全国大会 愛知県岡崎市			
10/21	水				
11/11	水	3:30	常任委員会⑫	下沼部小学校	・第2回授業研究に向けて ・読書感想文一次校正作業
11/13	金	平成21年度 関東甲信越 放送・視聴覚教育研究大会 長野大会			
11/18	水	13:30	第2回授業研究日	南河原小学校	授業者 添野 雅美
11/19	木	18:00	県大会前日準備 (お知らせ)	中原市民館	
11/20	金	9:00	神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会 川崎大会 会場 中原氏民館		
		13:30	会場 住吉小学校		
12/2	水	14:00	読書感想文表彰式	総合教育センター	・読書感想文表彰式
			ビデオ映像創作展 地区審査	総合教育センター	・ビデオ映像創作展審査
12/16	水	18:00	常任委員会⑫ (お知らせ)	下沼部小学校	・読書感想文 最終校正 ・読書感想画 審査
1/5	火	9:00	第28回 ビデオ映像創作展 全市審査		川崎市総合教育センター
		18:00	情報教育研究会 賀詞交歓会		
1/13	水	15:30	常任委員会	下沼部小学校	・県小研中央大会に向けて ・研究のまとめ、紀要作成について
1/20	水	14:00	ビデオ映像創作展表彰式	会場 川崎市総合教育センター	
2/3	水	9:00	神奈川県小学校教育研究中央大会		相模原大会
2/17	水	15:30	常任委員会⑬	下沼部小学校	・常任委員研修会
3/3	水	15:30	常任委員会⑭	岡上小学校	・年間反省、研究のまとめ
3/29	月	9:30	拡大事務局会	住吉小学校	・21年度年間反省 研究冊子印 ・22年度活動計画

## (2) 夏期会員研修会

8月4日(火) 8:30~16:00 於: 下沼部小学校

午前の部 学年部別 課題図書を読書会・講演会



低・中・高学年の部会に分かれて今年度の読書感想文課題図書について語り合う会を行いました。

集まった会員の皆様が様々な視点から一つの本について話し合い、読みが深まりました。

本は、どんなことを語っているのだろう？

読書感想文はどのように書かせれば良いのだろう？

読書感想文全国コンクール審査員 徳永隆憲先生

講演会「読書の感動を言葉に」

「読書感想文を書くことは、子どもが本を好きになる。」と話してくださいました。感想文の書かせ方についてもたくさんのアドバイスをいただきました。



## 読書感想文コンクールに向けての悩みをみんなで解消!

午後の部 コンピュータ研修



学校のコンピュータはしっかりと守られているけれど自分の家のコンピュータで作業をした後は、何か不安・・・。



トレンドマイクロ株式会社 神倉 奈美さん

「自分で守ろう!あなたとパソコン」

数え切れないコンピュータウィルスから自分のコンピュータを守るための方法を教えてくださいました。

自分の持っている USB メモリをウィルスにかかりにくくする理論や方法も教えてください、参加者全員が実習を受けることができました。

(5) 読書感想文・読書感想画

【平成21年度事業日程】

○ 第55回青少年読書感想文コンクール関係

◇ 第21回読書感想画中央コンクール関係

★ 読書感想文画集「本をよんで」第49号編集発行関係

市の活動		県の活動	
6/3	○ 図書主任会（下沼部小学校） ○ 読書感想文コンクール応募要項説明、関係資料配布	5/14	定例総会
9/16	○ 読書感想文コンクール各地区審査会（下沼部小） ◇ 読書感想画コンクール応募要項書類各校配布	6/22	感想文感想画審査委員 名提出
9/19	○ 読書感想文コンクール川崎市審査会（下沼部小） ★ 市審査最優秀、優秀作品寸評記入	8/21	神奈川県夏期研究大会
9/28	★ 読書感想文画集「本をよんで」掲載者作品等の原稿入れ ★ 読書感想文画集「本をよんで」予約申込書・チラシ・ 掲載者名簿原稿入れ	10/5	読書感想文コンクール地 区代表作品一覧表報告
10/10	★ 読書感想文画集「本をよんで」まえがき原稿依頼 ○ 読書感想文コンクール市表彰式関係提案 ○ 読書感想文コンクール市表彰式出席依頼	10/16	読書感想文コンクール地 区代表作品搬入
10/12	○ 読書感想文コンクール入選者一覧表各校配布	10/19~11/2	第一次在宅審査
10/29	★ 読書感想文画集「本をよんで」予約申込者・チラシ・ 掲載者名簿各校配布	11/5	読書感想文コンクール第 一次審査結果報告
11/11	○ 読書感想文コンクール表彰式事前準備（下沼部小） ★ 読書感想文画集「本をよんで」第1次校正（〃）	11/12~11/24	第二次在宅審査
11/16	★ 第1次校正原稿原稿入れ ○ 読書感想文コンクール表彰式冊子原稿入れ	11/25	読書感想文コンクール県 最終審査会
11/26 ~28	★ 読書感想文画集「本をよんで」地区申し込み締切 代金納入	12/25	6県読書感想文画集校正
12/2	○ 読書感想文コンクール市表彰式（川崎市総合教育センター） ◇ 読書感想画コンクール応募作品地区提出	1/13	読書感想文画コンクール 地区代表作品一覧表及び 作品提出
12/16	◇ 読書感想画コンクール市審査会（上作延小） 読書感想文・感想画賞状各校配布 ◇ 読書感想画掲載作品原稿入れ ◇ 読書感想画コンクール入選者一覧表各校配布	1/22	読書感想画コンクール県審 査会
12/16	★ 読書感想文画集「本をよんで」第2次校正（下沼部小）	2/16	読書感想文・読書感想画コ ンクール県表彰式 （平塚市中央公民館）
12/25	★ 読書感想文画集「本をよんで」各校で最終確認	2月中旬	県読書感想文画集発行
1/12	★ 読書感想文画集「本をよんで」第2次校正原稿入れ		
2月下旬	★ 読書感想文画集発行・各校配布		
2・3月	★ 読書感想文画集「本をよんで」を委員会、センター、 へ送付		





## (4) ビデオ映像創作展

- ① 児童や教職員が制作したビデオ映像作品を発表し合うことによって、ビデオ映像制作技術の向上を図り、併せて、伝達したいことを映像によって表現する力を育てる。
- ② 実施期日 平成21年12月 2日(水) 地区審査会 川崎市総合教育センター  
平成22年 1月 5日(火) 全市審査会 川崎市総合教育センター  
平成22年 1月20日(水) 表彰式 川崎市総合教育センター
- ③ 参加作品 児童の部：16点 教職員の部：6点 計22点

### 受賞作品

#### <児童の部>

最優秀賞	特別番組！おめでとう末長50周年	末長小学校 放送委員会
優秀賞	夏休みの生活について	岡上小学校 キッズプロジェクト委員会
優秀賞	ホトケドジョウ物語	宮崎小学校5年2組
奨励賞	黒川からはるひ野になった感想	はるひ野小学校 5年2組Aグループ
奨励賞	学校紹介	東小田小学校 4年2組ビデオ班
奨励賞	会田、猪俣、中村のヒヤヒヤ大冒険	岡上小学校 映画クラブ

#### <教職員の部>

最優秀賞	はじめてのかいもん！	住吉小学校 岸根賢司
優秀賞	おじいちゃんの勲章	岡上小学校 吉竹奈緒美 片岡義順
奨励賞	かぜ・インフルエンザの予防	住吉小学校 戸川悦子

### 3. Web サイト・情報かわら版

#### (1) Web サイト

本研究会の活動内容や成果を広くアピールし、川崎市内外における情報教育の普及・発展に寄与するため、Webサイトを運用しており公開開始から10年目を迎えた。

#### ① 一人一実践集

授業で使えるコンテンツなど常任委員による実践を公開している。

今年度は1年～6年、特別支援も含めて10の実践例を新たに追加した。

今年度で4年分の「一人一実践集」が出来上がっている。

#### 平成21年度 一人一実践

#### ICT利活用実践集

学年	教科・領域等	単元名・活動名	機器	実践者
1年	図工	<a href="#">おもしろいかなたらいっぱい</a>	プロジェクター・スクリーン・実物投影機	加藤 愛(下沼部小学校)
2年	図工	<a href="#">ひかりのおくりもの</a>	実物投影機・大画面テレビ(またはプロジェクター・スクリーン)・デジタルカメラ	福山 創(平小学校)
2年	生活	<a href="#">おもしろいやさいになあれ</a>	デジタルカメラ・実物投影機	谷澤 伸英(南百合丘小)
3年	音楽	<a href="#">ふしのとくちょうをかんじとう</a>	プロジェクター・スクリーン・DVDプレーヤー・「サウンドオブミュージック」のDVDソフト	川村 昌弘(末長小学校)
5年	国語	<a href="#">ことばの研究レポート</a>	コンピュータ・プロジェクター・実物投影機	小松原 和人(東小田小)
5年	理科	<a href="#">台風と気象情報</a>	プロジェクター・実物投影機・スクリーン・パソコン	石黒 祐也(旭町小学校)
5年	総合	<a href="#">ガタガタ探検隊</a>	デジタルカメラ・デジタルビデオカメラ・虫眼鏡	平野 善江(東大島小)
6年	国語	<a href="#">やまなし</a>	宮沢賢治の作品(学校図書館→パソコンルームへ)、パソコン(パソコンルーム)	田中 啓介(平小学校)
6年	理科	<a href="#">生物とかんきょう</a>	実物投影機・プロジェクター・スクリーン	山田 睦子(東柿生小)
6年	理科	<a href="#">ヒトや動物の体</a>	理科ねっとわあくパッケージコンテンツCD-ROM	清水 弘彦(下小田小)

授業に必要な機器を記載したり、指導計画や活動の流れなども入れ、すぐに実践が行えるようになっている。

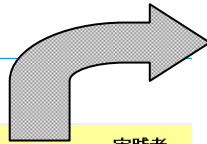
#### ② 便利に活用できる「資料室」

##### 〈研究紀要(詳細版)のアップ〉

研究紀要にはページに限りがあり、ダイジェスト版になっている。そこで、研究会のWebサイトには総会時に配布する研究紀要より、多くのページを使い、詳細になってアップをしている。ダウンロードをすることができるようになっている。また過去3年間の研究紀要(詳細版)もアップしてあるので、研究の流れもわかりやすくなっている。

##### 〈研究会で取り組んできた資料のアップ〉

過去に研究会で取り組んできた指導計画や、事業で使った資料などをアップしている。また常任委員が作成したフリーウェアもあり、情報機器が充実してきている今、よりいっそう活用する機会が多くなってきている。



#### ICT活用で確かな学力をつけよう(実践報告)

- 1 学年・教科 図工工作
- 2 単元名 ひかりのおくりもの
- 3 実践者(所属) 福山 創(平小学校)
- 4 活動を始め前に

#### (1) 準備するもの

教材提供図書、大画面テレビ(またはプロジェクター・スクリーン)、デジタルカメラ

#### (2) ICT機器やメディアの活用のおねがい

- 教材の單元を一画面に拡大表示することで、児童の集中度が高い学習を行う。
- 実物を拡大して表示することで、低学年児童が活動のイメージを持ち易くなる。
- ◎ 指導計画

時	授業の活動	指導上の留意点
1	① 学習のめあてをつき、活動の内容を知る。	○活動のイメージが持てるようにする。
2	② 光をおす穴をあけ、カラーセロハンを張る。	○安全を考慮して活動するようにする。
3	③ 光をあてて色のおぼえをつくらせ、	○具体的な張り方のコツを伝える。
4	④ 友人と作品を交換して楽しみながら、おもしろさを工夫したところを気づく。	○活動場所の確保をする。

#### 6- 活動の流れ

時間	学習内容・指導上の留意点	児童の活動(利用メディア)
1	○活動の内容を知り、光を通す材料の面白さに興味をもつことができるようにする。	○カラーセロハンを通して光が透る楽しさや、おぼえに興味をもつ。
2	○楽しい形の光を通す穴をあける。	○ 段ボールカッターを使って穴をあける。
3		◎ 段ボールカッターの安全な使い方を教える(教材提供図書、大画面テレビ)
4		○ うつし出されるおぼえの色を感じながら工夫してつくる。
5	○色などを工夫しながらカラーセロハンを張ることができるようにする。	◎ セロハンの上手な張り方を教える(教材提供図書、大画面テレビ)
6	○光をあてて色のおぼえをつくる場所をいろいろ試しながら、うつし出されたおぼえのおもしろさを楽しむことができるようにする。	○カラーセロハンを張ったものを増大の鏡外に持ち出して、いろいろな場所におぼえをうつし出して楽しむ。
		◎ 活動場所を確保する(デジタルカメラ、大画面テレビ)
	○友人と作品を交換して楽しみながら、おもしろさを工夫したところを気づくことができるようにする。	○友人と作品を交換しながら、光をあててみて楽しんで、おもしろい作品のよいところを話し合ったりする。

#### 7- 取り組み後の子ども達の変化や成果

- 実物(児童と同じ材料・道具、実際の場所等)を見せながら活動のポイントを説明することができるので、低学年の児童でも内容を理解し易く、活動に打ち込み易い。
- 一画面を全員で見ること、説明への集中度が高まるだけでなく、一度の斉指導ですむので児童の活動時間を増やすことができた。

#### 8- 応用で活用す!

- 具体物を使った説明なら何でも応用できる。
- ◎ 道具の使い方(絵の具、ものさし、分度器、コンパス、カッターナイフ、彫刻刀など)
- ◎ 漢字ドリルを用いた新出漢字の指導

川崎市立小学校情報教育研究会 資料室

研究紀要（詳細版）  
過去4年間分がアップしてある。

映像制作講習会で  
使用していたテキスト。  
ズームの仕方など、指導に役立つ  
ことがのってる。

ビデオテキスト『ビデオカメラを上手に使おう』  
はじめに

初めてカメラの操作(そうさ)をするときは、ドキドキしますね。「これないかな、うまくできるかな。」でも、そんなに難しいことはありません。このテキストを見て、上手なやり方をおぼえて、ぜひ挑戦してみましょう。  
また、何回も経験のある人も、このテキストを見て、ちょっとしたコツを覚えるともっと上手にできるようになります。

1. カメラのあつかい

みっつに撮影(さつえい)するだけなら、カメラがこわれることはありません。しかし、次のようなことには注意しましょう。

- ・ 落としたり、強いしん動(しんどう)をあたらない。
- ・ 太陽(たいやう)にレンズ(れんず)を向けない。
- ・ 湿度(しつど)や高温(こうおん)、低温(ていおん)にさらさない。



コツ その1 撮影(さつえい)するときには

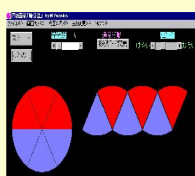
- ・ 三脚(さんきゃく) (さんきやく) を忘れずに  
手で持つとゆれ(ゆれ)てしまい、見づ(みづ)らい画面(がめん)になる。
- ・ 手で持つときは、わき(わき)をしめて しっかり持(も)とう。



円の面積(めんせき)の求め方  
などのフリーウェア  
がある。ダウンロード  
して活用(くわんよう)する  
ことができる。

資料名	概要	資料のファイル形式(データサイズ)				
		PDF	一太郎	Word	Excel	その他
<a href="#">平成20年度研究紀要</a>	平成20年度の研究紀要	(15.2MB)				
<a href="#">平成19年度研究紀要</a>	平成19年度の研究紀要	(20.4MB)				
<a href="#">平成18年度研究紀要</a>	平成18年度の研究紀要	(5.16MB)				
<a href="#">ビデオカメラを上手に使おう</a>	映像制作講習会で使用されているテキスト。放送委員会の児童用マニュアルとしても最適。	(131KB)				
<a href="#">今日からアナウンサー</a>	映像制作講習会(旧アナウンス講習会)で使用されているテキスト。放送委員会の児童用マニュアルとしても最適。	(198KB)				
<a href="#">情報教育のリテラシー育成計画</a>	平成13年度に小情研で作成された計画。				(24KB)	
<a href="#">読書活動年間計画</a>	読書活動・情報活用の計画。(小学1～6年)				(95KB)	
<a href="#">メディア活用能力育成の指導体系</a>	図書館活用・読書指導の視点から作成された、活用能力育成の指導体系。				(26KB)	
<a href="#">フリーウェア・コーナー</a>	小情研の常任委員が作成したソフト。 1. 円の面積の求め方(等分法) 2. 円の面積の求め方(分割法) 3. ミニミニぐらふ 4. サッカーのゴールとシュート 5. ミニミニブラウザ					各項目を参照

1. 円の面積の求め方(等分法) ver1.3 windows3.1/95/98/2000 作者:家オ子雅樹



円(えん)を中心(ちゆうしん)を通る直径(ていけい)で切り、いくつかに切り分けた合同(ごうどう)の扇形(せんけい)を長方形(ながたがた)になるように並べ替(なら)えることで、「円の面積(めんせき)」=「長方形(ながたがた)の面積(めんせき)」となります。このように既習(きじゆ)事項(じきぎょう)に置き換(か)えることで、円の面積(めんせき)の公式(こうしき)を作(つく)ります。

ところで、この授業(じゆぎやう)で困(こ)ったことはありませんか? 16等分(じゅうろくとうぶん)または、32等分(さんじゅうにとうぶん)まで教科書(きょうこ)では扱(あ)っていますが、これを超(こ)えた部分は、児童(じゆうじゆう)の想像(さうぞう)に任(まか)せていました。それはそれでいいのですが、その想像(さうぞう)が正しいかどうかの検証(けんしん)は、結局(けいこく)のところ意味(いみ)だっ(た)と思(おも)われます。本ソフトは、その部分(ぶぶん)に光(ひかり)を当て(あ)てようとしたものです。

実際に紙(かみ)を切(き)らなくてもできるのですが、「操作(さうさ)活動(かつどう)とパソコンでのシミュレーション(しミュレーション)の併用(へいよう)」を意図(いどう)して本ソフト(ほんソフト)を作(つく)りました。何でもパソコンでやるのではなく、「操作(さうさ)活動(かつどう)した後にパソコンで・・・というやりかたをお勧め(おすす)めします。

[\[ダウンロード\]](#) (自己解凍形式)

※ 取り込みは、1. ダウンロードをクリック。 2. ディスクに保存(ぼぜん)を選びOK(オーケー)をクリック後(ご)、保存先(ぼぜんさき)を指定(じゆんせい)するとダウンロードが始(はじ)まります。 3. 終了(しゆうりょう)後は「tabun13.exe」をダブルクリック。 4. 自己解凍形式(じこげいとうけいしき)になっており、複数のファイル(たぐひ)が現(あら)われます。 5. その中のピンクのアイコン(いこん)をダブルクリックすると、等分法(とうぶんぽう)のプログラムは実行(じぎやう)されます。

平成22年度は、この「資料室」をよりいっそう充実したコーナーにしていきたい。平成21年度末に導入された電子黒板・新型テレビの使い方、またこれらの機器を活用した授業の実践などを行い、アップすることで、研究会員の方々はもちろん、より多くの人たちのニーズに応えられるのではないかと考える。また、内容が古くなってしまったコンテンツの整理などもを行い、利用者にとってもっと利用する価値のあるWebサイトを目指していきたい。

(2) 情報かわら版

研究会で行われている事業や研究研修の内容について、市内各小学校の研究会員の皆様にわかりやすく情報の提供を行うことを目的に発行した。

また、情報かわら版は市内各校に配布するとともに、研究会Webサイトでもpdfファイルで配信している。

## おわりに

光ケーブルなど高速通信網の整備が進んだために、アンテナを使わずに地上デジタルテレビ放送を受信できるなど新しい情報化社会の波が押し寄せています。例えば、無線 LAN を使いインターネットでダウンロードした電子書籍等が普及すれば、紙ベースの出版物が限りなく少なくなり、その在庫量を誇っていた図書館のあり方も変化が必要になってくるでしょう。日常生活を大きく変える可能性を秘めた高度情報化社会が迫ってきています。

そうした子どもたちをとりまく情報環境が変わる中で平成 23 年度完全実施の学習指導要領では、

「児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピューターで文字を入力するなど基本的な操作や情報モラルを身につけ、適切に活用できるようにさせるための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用をはかること」として、各教科では具体的な使用例を提示しています。

情報教育研究会では、さらに進んで、これらの ICT 機器を特別な道具ではなく、黒板や定規などの普段の授業で使用している学習道具の一つとしてより日常的に使われ、様々な教科の中で情報教育が日常的に行われるよう推進して、この研究紀要にまとめましたので、ここにご報告いたします。

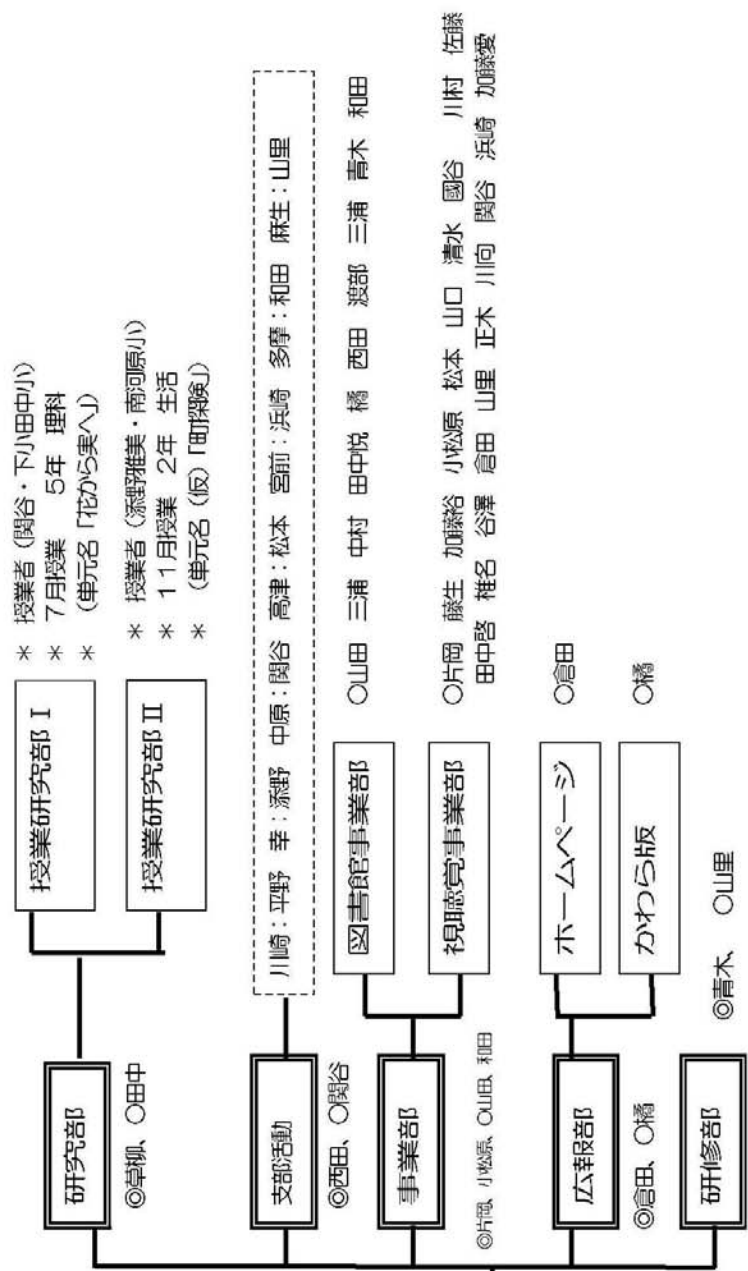
この一年間の研究や実践をご覧いただきご指導ご示唆をいただければ幸いです。

最後になりましたが、本研究会に変わらぬご理解とご支援をいただきました川崎市教育委員会と川崎市総合教育センターの皆様には、厚くお礼申し上げますと共に今後のご指導とご理解をお願い申し上げます。

副会長 宮城 曜一

平成21年度

川崎市立小学校  
情報教育研究会  
組織図 I



**図書館事業部**

- ・読書感想文コンクール (三浦)
- ・読書感想文コンクール (西田)
- ・表彰式 (和田)
- ・本名読んで (三浦)
- ・県読書感想文募集配布 (中村)
- ・学校図書館開校状況調査 (渡部)
- ・図書主任会 (山田) (和田)

川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
感想文	小松原	池田	橋本	渡部	椎名	山田
感想文	平野	草柳	中村	西田	青木	和田
						山里

**視聴覚事業部**

- ・情報・視聴覚主任会 (片岡) (小松原)
- ・ビデオ映像 (倉田)
- ・ビデオ表彰式 (山里)

## 平成21年度 研究に携わった人

役 員					
<b>【会 長】</b>	栗田 博美	(岡上)			
<b>【副会長】</b>	掛井 孝明	(新作)	高橋 邦夫	(南野川)	宮城 曜一 (菅)
	石堂 真理子	(住吉)	原 伸子	(白幡台)	
	高橋 亨	(西丸子)	中田 浩彰	(有馬)	竹口 政雄 (藤崎)
	山田 和秀	(中野島)	水沼富士位	(稗原)	金子進一郎 (久本)
<b>【顧 問】</b>	齋藤多美子	(南百合丘)	小島 晃宏	(子母口)	秋場 尚樹 (下沼部)
<b>【会 計】</b>	國谷 幸枝	(下小田中)	加藤 愛	(下沼部)	
<b>【会計監査】</b>	井部 良一	(真福寺)	長沼 國徳	(久末)	飯田 智芳 (南生田)
常 任 委 員					
<b>【事務局長】</b> 山口 嘉徳 (苅宿)	<b>【事務局次長】</b> 椎名美由紀 (土橋) 清水 弘彦 (下小田中) 田中 悦子 (下河原)	<b>【書記】</b> 谷澤 伸英 (南百合丘) 栗栖 里加 (岡上)	<b>【川崎区】</b>	小松原和人 (東小田)	平野 善江 (東大島)
				石黒 祐也 (旭町)	橘 真由子 (京町)
			<b>【幸区】</b>	草柳 譲治 (夢見ヶ崎)	添野 雅美 (南河原)
			<b>【中原区】</b>	中村 幸江 (下小田中)	池田ふみ子 (住吉)
				関谷 洋平 (下小田中)	武川 恭子 (住吉)
			<b>【高津区】</b>	藤生 豊 (久末)	本岡 佐知子 (久本)
				川村 昌弘 (末長)	西田 直美 (子母口)
				加藤 裕子 (末長)	松本 武 (子母口)
				橘 妙子 (上作延)	
			<b>【宮前区】</b>	渡部 康夫 (白幡台)	三浦 美保 (犬蔵)
	田中 啓介 (平)	青木あゆ子 (宮崎台)			
	福山 創 (平)	浜崎 俊治 (野川)			
<b>【多摩区】</b>	和田 和子 (西菅)				
<b>【麻生区】</b>	山田 睦子 (東柿生)	倉田 亨 (はるひ野)			
	山里 昌士 (南百合丘)	片岡 義順 (岡上)			
<b>【特別常任委員】</b>	根井 光洋 (日吉)		若林 民夫 (木月)	池谷 保久 (大戸)	
	佐藤 拓 (久本)		家才子雅樹 (梶ヶ谷)	釘本 裕介 (久地)	
	宇津野 浩 (中野島)		岩田 昭彦 (有馬)	酒井 えみ (菅)	
	近藤 明彦 (麻生)				

\* 職員勤務校は平成22年3月31日現在